

## 盛里地区

76. 蚕影山の観音石仏  
 77. 与縄城跡  
 78. 天正寺  
 79. 御嶽神社  
 80. 盛里の松木家  
 81. 本光寺（伝昌寺の板碑）  
 82. 石船神社（護良親王の伝説・石船神社のムササビ）  
 83. 尾咲原遺跡復元住居  
 84. 五社神社  
 85. 雛鶴神社



## 76. 蚕影山の観音石仏

与繩上手地区の東に、蚕影山がある。上手地区で養蚕神を祀るようになったのは、弘化四年（一八四七）以前からで、与繩地区の人々が昔から養蚕を生計の柱としていたことがうかがえる。



第2番聖観音

蚕影山の参道三三曲りに配された観音石仏は、西国三十三番観音靈場巡りにならったもので一番には地蔵菩薩の石仏も並べられて、如意輪、聖千手、十一面、馬頭などの觀音が祠められている。三十三番の付近に大日如來の石像と蚕影神と刻まれた石柱のほかに雨屋があり、この城跡は、日影城、平城とも呼ばれ、現在もなお郭、空堀などの遺構が残されている。

## 77. 与繩城跡

与繩の日影地区は、朝日川の左岸にあり、対岸の日向地区と向きあっている。集落は平地に集中しているが、その南側の段丘上に与繩城跡がある。

この城跡は、日影城、平城とも呼ばれ、現在もなお郭、空堀などの遺構が残されている。

城は、本郭

と後郭一辺七〇メートルの東西に

並ぶ二つの郭

によって構成

されている。

両郭の間には

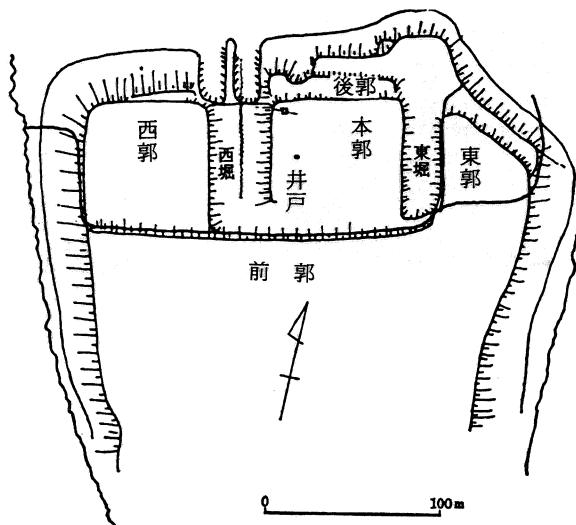
幅一八メートルの細長い窪

地があり、こ

れを西堀とい

い、また本郭の東辺にも窪地があり、こ

与繩城跡



与繩城跡実測図

れを東堀という。そして、東郭の平坦地には平城といふ名称が残されている。



蚕影山大日如來



第29番千手観音

その中に蚕影神を中心いて、兵頭、大山祇命の三神を祀った祠がある。観音靈場巡りは平安時代から庶民のなかに発生し、江戸時代特に盛んになった。

都留市において三十三観音石仏が揃っているのは、この蚕影山だけである。



第14番如意輪観音

## 77. 与繩城跡

与繩の日影地区は、朝日川の左岸にあり、対岸の日向地区と向きあっている。集落は平地に集中しているが、その南側の段丘上に与繩城跡がある。

この城跡は、日影城、平城とも呼ばれ、現在もなお郭、空堀などの遺構が残されている。

城は、本郭

と後郭一辺七〇メートルの東西に

並ぶ二つの郭

によって構成

されている。

両郭の間には

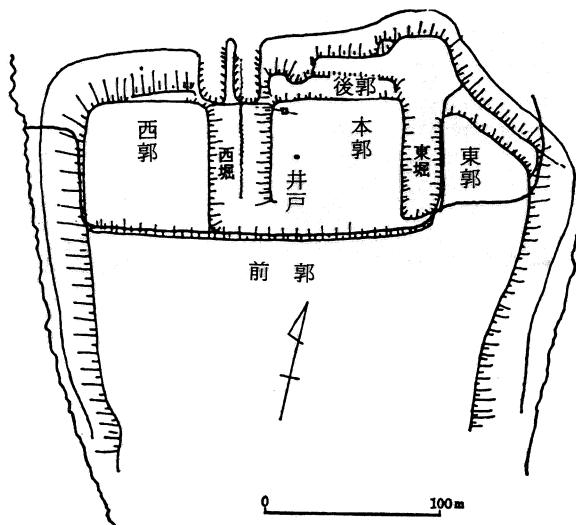
幅一八メートルの細長い窪

地があり、こ

れを西堀とい

い、また本郭の東辺にも窪地があり、こ

与繩城跡



与繩城跡実測図

れを東堀という。そして、東郭の平坦地には平城といふ名称が残されている。



蚕影山大日如來



第29番千手観音

## 77. 与繩城跡

与繩の日影地区は、朝日川の左岸にあり、対岸の日向地区と向きあっている。集落は平地に集中しているが、その南側の段丘上に与繩城跡がある。

この城跡は、日影城、平城とも呼ばれ、現在もなお郭、空堀などの遺構が残されている。

城は、本郭

と後郭一辺七〇メートルの東西に

並ぶ二つの郭

によって構成

されている。

両郭の間には

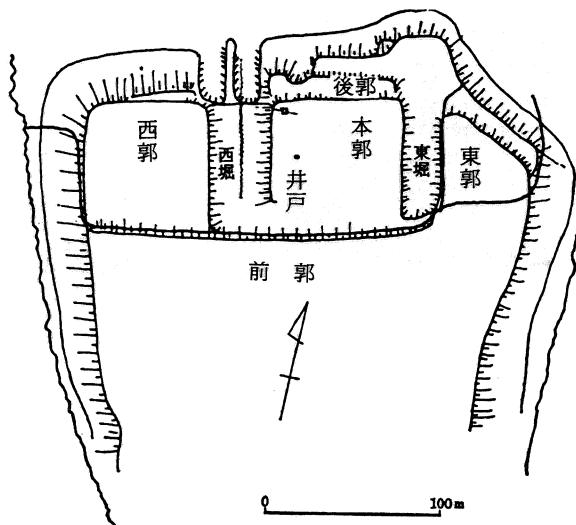
幅一八メートルの細長い窪

地があり、こ

れを西堀とい

い、また本郭の東辺にも窪地があり、こ

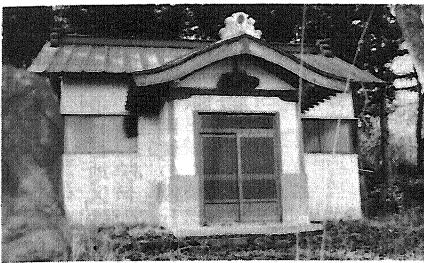
与繩城跡



与繩城跡実測図

れを東堀という。そして、東郭の平坦地には平城といふ名称が残されている。

## 78. 天正寺



天正寺本堂

臨済宗南光山天正寺は、与縄日影に所在し、はじめ日向の御嶽神社の横にあつたが、山崩れのため現在地に移ったといわれている。本尊は、千手觀音菩薩で、開山は、大光覺雲禪師安山和尚である。開基は小山田越中守信有と武田信虎の妹との間に生れた女である。

「甲斐国志」によると、信有の女は、北条氏の家臣某に嫁す約束があつて、

婚約者某は小沼まで来たが、この地において急病のためついに死亡してしまつた。この報を聞いた信有のむすめは、直ちに髪を落して尼となり茂菊理繁大姉と号し、一字を創立して余生を送られたとのことである。

その寺がこの天正寺寺である。いまは無住となり墓地だけが残されている。



御嶽神社社殿

祭神は、素盞鳴尊・大己貴命・少彦名命と矢ノ根石が合祀されている。祭礼の春祭は四月一六日に上手は蚕影さん、日向は愛宕神社、日影は金比羅神社と三区別々に行なわれ、秋祭の九月一日は、三地区一緒に御嶽神社の祭りが行なわれている。

天承元年（一一三一）源義政が、日影地区の南の山に隠城を造り、その城の守護神として社殿を造営したのが始まりと伝えられている。

寛永六年（一六二九）

矢竹山麓に社殿を移したが、矢竹山が崩れ社殿が埋もれ、一時、井倉の生出神社に合祀し、宝暦三年（一七六三）に現在の与縄日向に奉還したものである。

## 80 盛里の松木家



松木家

の民家としては、庭園を含めて最大級のものである。渡辺家には、寛文元年（一六六一）以来、明治に至るまでの古文書が七千五百余点残されており、郷土の近世史研究調査史料として貴重なものとなっている。

江戸時代に都留郡の郡中惣代をつとめたことがある

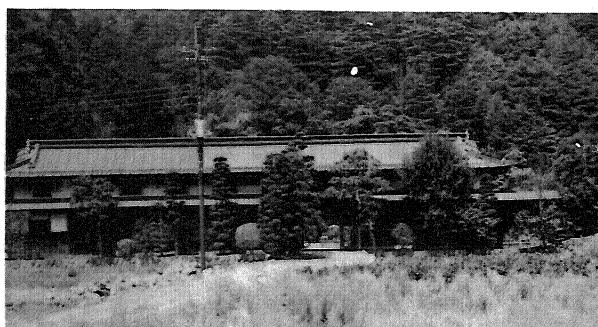
渡辺家は、朝日馬場に所在し、屋号を「松木」といい、豪農として知られた。

火災により旧家屋は焼失し、大正一〇年建築されたものであるが、長屋門をもつた屋敷は、当時を偲ぶことができる。母屋に洋間を取り入れた豪邸は、都留市

## 長屋門

代々名主を努め、特に、柳蔵の時代天保の郡内一揆に遭遇したが、よく村民を掌握し自らは一揆の首謀者と交渉をもちながら、遂に一名の参加者も、一名の处罚者も出さなかつたことをみても、その支配力の強さが知られる。

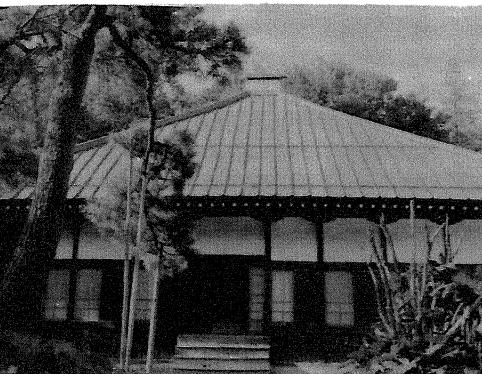
## 79. 御嶽神社



## 81. 本光寺

曹洞宗旭洞山本光寺は朝日馬場に所在し、本尊は、延命地蔵菩薩坐像で、天正三年（一五七四）香林存和尚により開創され、開山は、長生寺一五世一卓是和尚で、伝昌寺の開山と同じである。

寺宝の香炉は、門前の「みささぎ」の中から出土したもので、菊と桐の紋章が刻印されている。また、同



本光寺本堂



板碑

### 伝昌寺の板碑

この板碑は、伝昌寺が無住となつたために本光寺が保管しているものである。

これは、緑泥片岩によって作られた死者への追善供養のための塔婆で、厚さ一・九センチメートル、幅二・一センチメートル、長さ九・一センチメートルである。

板碑は、鎌倉時代から盛んに造立され、中世の信仰を物語る貴重な文化資料である。昭和五〇年九月二九日市の有形文化財に指定された。

村出身で、江戸時代末期に紀州藩のお抱え絵師であった旭岳の「地獄極楽絵図」の二幅が保存されている。

本堂天井には、岳麟の弟子であつた清水豊掌の絵や、

大平の俳人杉本杉夕の句が書かれている。

## 82. 石船神社



石船神社社殿

祭神は表筒男命・中筒男命・底筒男命の三神で、御神体として石の船が祀られている。祭礼は、八月一日、朝日馬場の氏子により行なわれる。

延元二年  
(一三三七)

七月、高根山の頂の清池を選び石

船明神を祀

ったが、文禄三年(一五九四)現在地に社殿を造営した。

### 石船神社のムササビ

ムササビはリス科に属し、木の上で生活し、夕方になると餌を求めて滑空により一〇〇メートル位は移動する夜行性の動物である。

市内では、ここその他、四日市場の生出神社、十日市場の小篠神社、鹿留の今宮神社等で観察できる。また、小学四年生の教科書にも載せられている。

### 護良觀王の伝説

石船神社には、大塔宮護良親王といわれている御首級が祀られている。

伝説によると建武一年(一三三五)七月一日、親王は鎌倉の土牢で伊賀守義広のために殺害された。側室の雛鶴姫は従臣とともに鎌倉街道をこの地に逃れ、石船神社に御首級を奉安し、従臣等は付近に落ちて農民となり土着したと伝えられている。

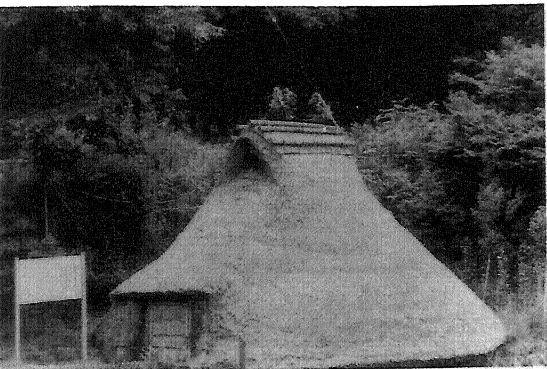
毎年一月十五日の朝、当神社の祭礼当番引継ぎ式が行なわれる。この引継ぎ式のとき御首級が拝観できる。

御首級の復願術は、江戸初期といわれ、技術がすぐ

れており、長い間住民の信仰対象になつていていることから、昭和五四年三月市の有形文化財に指定された。

## 83. 尾咲原遺跡復元住居

昭和五九年に復元された縄文時代中期の住居で敷石住居とよばれているものである。市内では住吉・中谷遺跡でもこのような住居跡が発見されている。



尾咲原遺跡復元住居

## 85. 雛鶴神社

秋山村に向って県道沿い雛鶴峠にさしかかったところに神社の入口があり、約500メートル入ると、山裾にある。



雛鶴神社社殿

祭神は、雛鶴姫命・神直天日命・大直天日命を祀り、祭礼は、四月二〇日に行なわれている。  
御神体は護良親王、雛鶴姫の守護神であった水神様の木像であると伝えられ、「弘」九年（八一八）空海奉作之」と記してある。

社の傍に姫を埋葬したという塚があり、また、雛鶴姫の供をした藤原宗忠、馬場小太郎二人の従臣のために植えられたという樹齡三〇〇余年の老松二本があり「お供の松」と呼ばれている。

### 雛鶴姫の哀話

護良親王の御首級を持った姫は、従臣と共に鎌倉街道を秋山村に入った。無生野で親王の皇子を身ごもつていた姫は産気づき、民家に休養したいと願ったが、後難をおそれて村人は誰ひとり宿を貸す者はなかった。やむなく山頂にたどりつき、ここで皇子を生んだが間もなく亡くなってしまった。

皇子は葛城宮継連王といい、従者は農民として土着したと伝えられ、また、宿を貸さなかつた地区は、その後「無情野」と呼ばれるようになつたとのことである。

## 84. 五社神社

旧盛里村の産土神（村社）で祭神は天照大神、月夜見命、豊受姫命、保食命、菅田別尊で、九月一五日が祭礼で、神輿の巡行や神楽が舞われる。

創立は不明であるが、天神社、稻荷大明神、落合稻荷大明神、神明神社、八幡神社、山神社の六社を祀つてあったが、弘化二年（一八四五）に山神社を他の場所に祀つて、五社神社となつたといわれる。



五社神社

### 市内歴史散策モデルコースⅢ

## (五) 都留市のいしづみ控訪コース

### 谷村地区

- (1) 芭蕉句碑 (佐伯橋際—19 P 参照)
- (2) 藤堂足道詩碑 (田原神社境内—21 P 参照)
- (3) 芭蕉句碑 (栗山公園—23 P 参照)
- (4) 金子無業碑 (法泉寺—18 P 参照)
- (5) 小俣周仙碑 (普門寺—15 P 参照)
- (6) 雨宮六園墓 (普門寺—15 P 参照)
- (7) 興譲館跡碑 (裁判所庭園—12 P 参照)
- (8) 谷村高等女学校記念碑 (市役所前)
- (9) 明治百年記念碑 (文化会館)
- (10) 八代翁遺功碑 (大神宮境内—29 P 参照)
- (11) 芭蕉句碑 (円通院境内—31 P 参照)
- (12) 森島其進碑 (専念寺—34 P 参照)
- (13) 芭蕉句碑 (玉鏡寺参道—64 P 参照)
- (14) 三枝挙一路句碑 (リ — リ )
- (15) 神印拳一翁頌徳碑 (古渡橋際—59 P 参照)
- (16) 三枝彦太郎頌徳碑 (リ — リ )
- (17) アツツ観音碑 (保寿院—81 P 参照)
- (18) 小形山大櫻記念碑 (稻村神社境内—88 P 参照)

### 木生地区

- (1) 木生地区
- (2) 赤松 (古城山—57 P 参照)
- (3) 大スギ (熊野三社権現—62 P 参照)
- (4) ヤマブキ草 (玉鏡寺—63 P 参照)

### 開地地区

- (5) 開地地区
- (6) 大櫻 (八王子神社—83 P 参照)
- (7) カツラの木 (養福寺—106 P 参照)
- (8) カツラの木 (養福寺—108 P 参照)

### 三吉地区

- (9) 三吉地区
- (10) 彼岸桜 (阿夫利神社—112 P 参照)

## (六) 市内樹木・草木探訪コース

### 盛里地区

### 谷村地区

### 東桂地区

### 木生地区

### 開地地区

### 三吉地区

### 谷村地区

### 東桂地区

### 木生地区

### 開地地区

### 三吉地区